

◆単元のポイント

○修学旅行「小樽自主研修」は総合の一部

修学旅行で、小樽を自主研修に取り入れる学校が多いと思います。自分たちで歩くコースを決めて、小樽のよさを実感しながら歩く体験活動です。しかし、修学旅行が終了＝学習の終了はもったいないと思います。修学旅行をはさみ、前後で「小樽をテーマ」にした総合として取り組んでみましょう。

○カルタ作りから小樽の特徴をつかむ

小樽の大まかな特徴をつかませてから、個々の課題作りをさせます。3～4人のグループを構成し、「小樽の特徴を一つ表すカルタ」を作らせます。指定された文字から始まる読み札を個々が集めた情報をもとに「5・7・5調」で作ります。



○各自の課題を決定する

出来上がったカルタを学年で交流し、クラスで遊ぶにつれ、小樽に関する興味・関心が沸いてきます。そこで、調べてみたいこと、どうしてなんだろうという疑問から課題を作り、個々の調査活動が始まります。

○目的別に学級をばらしての小樽自主研修

個々の課題が決まると、小樽の自主研修は自分の課題を解決するための現地学習となります。実際に目で確かめる、店員さんにインタビューする、写真にとるなどの活動です。個々の課題が違うわけですから、同じような課題の子と学級の枠を越えて歩かせます。

○最後は参観日に発表を

最後は参観日に合わせて、保護者を相手に発表をします。

◆単元の目標

修学旅行での「小樽自主研修」を中心に据え、長いスパンで「小樽」を総合として調査活動することで、子供には、粘り強く追求する姿と地元北海道を見る「目」の広がり期待したい。

◆単元の構想（19時間扱い）

小樽の街の特徴を調べて、カルタにしよう

旅行雑誌 インターネットで 家の人に
を見て 検索をして 聞いて
観光協会に 街頭インタビュー
電話をして をして

カルタを発表しよう カルタで遊んでみよう

坂の街 運河がある街 観光客が多い街
寿司がおいしい街 アイスクリームがおいしい街
ガラス工芸の街 歴史的建造物の多い街

個々の課題へ

建造物をもっと調べたい どうして寿司屋が多いの
ガラスの作り方を知りたい どこからの観光客が多いの

小樽をもっと調べよう

個々の追求

実際に小樽の街を歩いてみよう

個々の表現・発表

家の人に発表しよう

＜留意点＞

- ・ 3～4人をグループにして、カルタの読み札と取り札を作らせる。
- ・ 調べ方には様々な方法があることを伝える。
- ・ 発表し合い、実際にカルタ遊びをし、小樽の特徴をつかませる。
- ・ 個々が課題をもてるように支援する。
- ・ 小樽自主研修では、課題別にチームを組んで歩かせる。
- ・ 参観する親に発表することを伝え、相手を想定した表現方法と発表方法を考えさせる。

◆実践するにあたって

小樽に限らず、修学旅行で自主研修をする場合、まずは、グループを決めてから歩くコースを決め、歩くコースも教師側が用意したり、見所の紹介も係活動に位置付けたりする学校が多いと思います。自主研修ですから、自分の研究したい課題に応じて歩かせることがいいと思います。ただし、子供がどのコースを歩くか、どんなお店に入りどういう活動をするのか等を十分把握し、安全面での配慮を怠らないようにしたいものです。